

令和2年度高知県小規模林業推進協議会・通常総会・第2回協議会

開催日：令和3年3月17日

場 所：高知県立青少年の家 大集会室

○中嶋会長

一時期、コロナの影響で需要が動かないということで、材価もちょっと下がっていましたが、最近ちょっと良くなってる。特にヒノキの価格が戻ってきたということは言われています。そういうことで、コロナに負けずに頑張っていたいただきたいと思っています。

今日は挨拶代わりに、森林経営の話をしていただこうと思います。

今から話しをする人は、もう10年ぐらい前から、補助金をもらってない、完全に自立してる人です。家族は2世帯、おじさんと息子さん世帯、両方で林業をやってるんですが、完全に林業だけでこの2世帯が飯食ってます。補助金ゼロです。

補助金ゼロになるきっかけが、平成23年に森林経営計画制度が始まったことです。そのときに、制度にはまらなくなり、別に補助金なくても良いなみたいな話になって。

補助金もらわない状態で、ちょうど10年になってきました。なぜ、補助金ゼロになれてるかということです。キーポイントが2つあります。

一つ目は、道が入ってること。壊れない道を入れて、使い続けられてる状況を作ったことが、補助金が要らない理由の一つ目です。新しく作業道をつけて、その補助金をもらう必要がないという。

もう一つは、多間伐施業を行っていること。間伐を繰り返す、多間伐施業。長伐期多間伐施業という言い方もありますが、あれは多間伐と言ったほうがいいんじゃないかという気がします。

50年皆伐再造林、なぜ不採算になるのか、1つはまだ質が悪い、単価が上がらない。50年だとBC材中心です。鹿児島大学の遠藤という教授が50年で切ったら、ABC比率は2・3・5と書いてました。だから、8割がBC材となるわけですね。それから、高コストな再造林が頻繁に繰り返される。それから、伐採に使用する機械も高コストになってしまうというようなことがあります。

多間伐施業は、本数を徐々に徐々に減らすんです。間伐を行う10年の間、木は成長しています。10年で大体25%ぐらい成長するそうです。だから、2割以下の間伐で止めておく。そうすると、次の間伐のときに蓄積が増えているわけです。

今、未整備林で道も入ってない、入ったら真っ暗いという山は、本数が多いということですから、多間伐施業はやりやすい。ぜひこれをやっていただきたいわけです。

あと、重要なことが作業道の伐開幅です。良い作業道を入れた山は、作業道の下から上見ると林冠が閉じているんです。こうすると、雨風光が入ってこないです。これが壊れない要因なんです。それから、森を劣化させない要因です。

始めたばかりの人はちょっとハードル高いかもしれませんが、ここを目指してほしい。どうすればこういう施業ができるか考えて、頑張ってもらえれば、非常に高知の森はいい森になって、林業も発展し、従事者も増える。

ということで、以上でございます。ありがとうございました。